

第95回 品質管理シンポジウム

日 時：2012年12月6日(木)～8日(土)

会 場：箱根ホテル小涌園

主 催：一般財団法人 日本科学技術連盟

後 援：日本経済新聞社，一般社団法人 日本自動車部品工業会，社団法人 日本品質管理学会

※後援団体には現在依頼中

企業が飛躍するための新商品創造 一心ときめく，ワクワクした商品の継続的な提供



特別講演 1

「新興国市場をとりこにする
グローバルマーケティング」

財部 誠一 氏

経済ジャーナリスト



基調講演

「高品質・高信頼性と
イノベーターのジレンマ，
そしてワクワク品質の源泉は？」

圓川 隆夫 氏

東京工業大学
大学院社会理工学研究科 教授



特別講演 2

「サムスン電子の新商品創出」
(仮題)

Y. W. Lee 氏

サムスン電子(株) 常任顧問



講演 1

「日本のこれからの
“モノづくり革命”」

田中 千秋 氏

東レ(株) 相談役



講演 2

「富士重工業の
“新商品創出”の背景」

武藤 直人 氏

富士重工業(株) 取締役 兼 専務執行役員

最新情報はこちらをクリック!!

第95回 品質管理シンポジウム

検索

第95回 品質管理シンポジウム 講演概要

12/6(木) 特別講演 1

「新興国市場をとりこにするグローバルマーケティング」

財部 誠一氏 経済ジャーナリスト

リーマンショックをきっかけに新興国の経済が本格的に始まった。中間所得層が急増する新興国市場では各国企業はシェア争いにしのぎを削っている。多くの日本企業が新興国ビジネスの本質を見間違え、存在感を示すことができていたが、最近では日本特有の自前主義を捨て、現地のニーズに即した現地商品の開発に力を入れたことで売上げを伸ばしている日本企業も増えてきた。どうやって現地のニーズを捉え、売れる商品を市場に投入しているのか。中国、インド、ASEANなどで奮闘する日本企業の取材を通じて見えてきた「新興市場における成功の条件」を紹介する。



12/7(金) 特別講演 2

「サムスン電子の新商品創出」(仮題)

Y. W. Lee 氏 サムスン電子(株) 常任顧問

講演概要は調整中のため、今後の最新情報は下記URLをご覧ください。

<http://www.juse.or.jp/tqm/252/>



12/7(金) 基調講演

「高品質・高信頼性とイノベーターのジレンマ,そしてワクワク品質の源泉は？」

圓川 隆夫氏 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 教授

1980年後半達成した高品質・高信頼性のイノベーション、その成功体験が市場環境が大きく変化した現在それが足かせとなっていないか。このジレンマを抜け出すには、徹底した市場ニーズの把握やマーケティングと連動した開発・生産体制革新と、市場によってはFrugal engineeringに代表される開発・設計の発想転換も求められる。先進国、新興国各4カ国の15の製品・サービスのCS調査も踏まえて、ジレンマを打ち破り顧客価値創造に結びつけるワクワク創出を含めた5つの品質戦略を提起する。



12/7(金) 講演 1

「日本のこれからの“モノづくり革命”」

田中 千秋氏 東レ(株) 相談役

今、世界は2つの意味で歴史的転換点に立っている。その1つは「環境・資源・エネルギー新時代」、もう1つは「真のグローバル新時代」の始まりである。前者は日本の素材産業にとって成長するチャンスを与えるが、一方で「技術で勝っても事業で負ける日本」と言われるように、日本の成長を支えてきた製造業の国際競争力が失われつつある。いかにして日本のモノづくりを変革し復権できるかが我々に突きつけられた課題である。皆さんと一緒に考えてみたい。



12/7(金) 講演 2

「富士重工業の“新商品創出”の背景」

武藤 直人氏 富士重工業(株) 取締役 兼 専務執行役員

スバルは黎明期から、“技術は人のためにある”との思想に基づき、自ら高い安全性能を目指してきた。1960年代、水平対向エンジンを採用したFFでの高速安定性追求に始まり、1970年代、AWDで道を選ばないアクティブセーフティ、1990年代、車体骨格の軽量化で楽しい走りとトップの衝突安全性能の両立、更に安全思想を発展させ、そもそも“ぶつからない”ことを目指した。技術面では常に困難は存在するが、お客様の為に、「正しい開発である」との認識が、チームを支えてきた。結果、スバル独自の運転支援システム“アイサイト”の実現に繋がっている。今回は特にアイサイトの20年間に渡る開発の歴史と、それを支えたスバルの開発思想について解説する。



品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしております。

しかしながら、最近の食品、宇宙開発、原子力、運輸、医療などの安全性を重視する分野や巨大技術分野で、記録的に大きな事故が発生しています。日本の強さであった品質や技術力にも陰りが見られることも見逃せません。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第94回
東京都市大学 教授
涌井 史郎 氏



第93回
一橋大学大学院 教授
一條 和生 氏



第92回
中村ブレイス 社長
中村 俊郎 氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三 氏



第90回
山本化学工業 社長
山本 富造 氏



第89回
新日本製鐵 代表取締役会長
三村 明夫 氏



第89回
日本マクナルド 会長兼社長兼CEO
原田 泳幸 氏



第88回
小松製作所 代表取締役会長
坂根 正弘 氏



第87回
花王 前会長
後藤 卓也 氏



第87回
テルモ 代表取締役会長
和知 孝 氏



第86回
経済同友会 代表幹事
桜井 正光 氏



第85回
サムスン電子 副会長
Y. W. Lee 氏



第84回
同志社大学 客員研究員
ロバート E コール 氏



第83回
経団連 名誉会長
奥田 碩 氏

品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2012年8月31日現在

- | | | | | |
|-------------------|---------------|---------------------|-----------------|------------------|
| 1 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 14 コーセル(株) | 24 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 37 長津工業(株) | 50 ペンてる(株) |
| 2 アイシン精機(株) | 15 コニカミノルタ | 25 (株)ジェイテクト | 38 日華化学(株) | 51 前田建設工業(株) |
| 3 (株)アドヴィックス | ビジネステクノロジー(株) | 26 清水建設(株) | 39 (株)日科技連出版社 | 52 (株)前田製作所 |
| 4 アルテマিসター(有) | 16 コニカミノルタ | 27 積水化学工業(株) | 40 日産自動車(株) | 53 三島食品(株) |
| 5 (株)IH I | ホールディングス(株) | 28 (株)セキソー | 41 日産車体(株) | 54 (株)村田製作所 |
| 6 (株)MCシステムズ | 17 (株)小松製作所 | 29 ダイヤモンド電機(株) | 42 日本電気(株) | 55 (株)メイドー |
| 7 大塚化学(株) | 18 サンデン(株) | 30 (株)竹中工務店 | 43 (株)日本科学技術研修所 | 56 名北工業(株) |
| 8 岡谷電機産業(株) | 19 サンデンシステム | 31 (株)千代田グラビヤ | 44 (株)羽生田製作所 | 57 (株)安川電機 |
| 9 オムロン(株) | エンジニアリング(株) | 32 (株)デンソー | 45 パナソニック(株) | 58 ヤマハリビングテック(株) |
| 10 鹿島建設(株) | 20 サンデン物流(株) | 33 東海ゴム工業(株) | 46 日野自動車(株) | 59 (株)ユニバース |
| 11 関西電力(株) | 21 サンワテック(株) | 34 トヨタ自動車(株) | 47 富士ゼロックス(株) | 60 (株)リコー |
| 12 キャノン電子(株) | 22 (株)GSユアサ | 35 トヨタ自動車東日本(株) | 48 富士電機(株) | 61 リコーエレメックス(株) |
| 13 (株)ケイ・シー・シー | 23 (株)ジーシー | 36 (株)豊田自動織機 | 49 フジミ工研(株) | 62 リコーロジスティクス(株) |

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1** 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2** 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3** 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4** 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5** 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6** 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りませんので不定期です）

入会費用 1口につき年額182,700円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと 1名様参加枠（無料）を確保できます。
2名様から特別価格（42,000円）でご参加いただけます。

問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（茂田／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

趣 旨



山内 康仁 氏

アイシン精機(株)
相談役

第95回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

ITの進歩で、企業は、「時間」と「場所」を越えて、事業展開ができるようになりました。他方、消費者も瞬時に、世界中の情報を選択できます。このため、市場の環境は瞬く間に変化してしまいます。

昨今、日本発のヒット商品が少なくなり、日本の若者から、日本製品離れが進んでいるように思われます。ヒット商品の創造に、日本企業は、海外企業に、後れを取りつつあるのではないかと危惧しています。

映画007の中では、40年前に、すでに自動車電話が使われていました。このことは、夢を追い求めることが、ワクワクする新商品を生み出す源であることを物語っております。一方、人間は太古の時代から「空を飛びたい」という夢を持っていました。しかし、それが実現したのは、つい100年前の出来事です。夢を形に変えるには、技術を必要とするのも事実です。

日本企業の強みは、「技術力」と言われて久しいが、最近、この技術力が低下しているのではないでしょう

か。ワクワクする新商品を創造するには、企業が夢を追い続けると共に、それを達成する技術を蓄積することが必要です。

日本発のワクワクする商品が少なくなったのは、

- ◇ ‘消費者の夢を捉える’ のが、ヘタなのか、
 - あるいは、‘夢を追い求める人’ が減ったのか。
 - ◇ ‘夢を形に変える技術’ に遅れを取っているのか。
 - ◇ 夢を実現する ‘企業のベンチャー文化’ が減ったのか。
- もろもろの要因があるはずですが、

今回は、これらの要因を徹底的に掘り下げ、『“お客様の望むワクワクする商品”を生むには、企業はどう変わらなければならないか』を追求したいと思います。

今回のシンポジウムでは、これらについての幅広い専門家、並びに先進企業経営者に講演をいただきます。さらにさまざまな分野の方によるグループ討議を通じ、有意義なシンポジウムになることを期待しています。

本シンポジウムの の特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム		開催期日：2012年12月6日(木)～8日(土) 会 場：箱根ホテル小涌園	
月 日	時 間	科 目	講 演 者
12/6 (木)	19:30～20:30	<特別講演1> 「新興国市場をとりこにするグローバルマーケティング」	財部 誠一 氏 経済ジャーナリスト
	20:30～20:45	質疑・応答	
	20:45～21:45	グループ討論メンバー自己紹介	
	21:45～23:00	談話室（参加自由）	
12/7 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 役員
	8:40～8:50	<オリエンテーション> 「企業が飛躍するための新商品創造 ～心ときめく、ワクワクした商品の継続的な提供～」	山内 康仁 氏 アイシン精機(株) 相談役 ※95QCS主担当組織委員
	8:50～10:00	<基調講演> 「高品質・高信頼性とイノベーターのジレンマ、 そしてワクワク品質の源泉は？」	圓川 隆夫 氏 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 教授
	10:00～10:10	質疑・応答	田中 千秋 氏 東レ(株) 相談役
	10:10～10:30	休憩	
	10:30～11:30	<講演1> 「日本のこれからの“モノづくり革命”」	
	11:30～11:40	質疑・応答	
	11:40～12:30	昼食・休憩	武藤 直人 氏 富士重工業(株) 取締役 兼 専務執行役員
	12:30～13:30	<講演2> 「富士重工業の“新商品創出”の背景」	
	13:30～13:40	質疑・応答	Y. W. Lee 氏 サムスン電子(株) 常任顧問
	13:40～14:50	<特別講演2> 「サムスン電子の新商品創出」(仮題)	
	14:50～15:10	質疑・応答	山内 康仁 氏 主担当組織委員
	15:10～15:25	グループ討論の主旨説明	
	15:25～17:50	グループ討論(1)	
	18:00～19:00	夕食(立食)	
	19:10～21:00	グループ討論(2)	
	21:00～23:00	談話室(参加自由)	
	8:30～9:50	グループ討論報告(10分×7班※予備10分)	司会：山内 康仁 氏 報告：各班リーダー(討論) ファシリテーター：飯塚 悦功 氏 (東京大学大学院)
	9:50～10:10	休憩	
12/8 (土)	10:10～11:30	総合討論	山内 康仁 氏 主担当組織委員
	11:30～11:40	第95回 品質管理シンポジウム まとめ	
	11:40～11:50	次回(96回) 品質管理シンポジウム案内	
	11:50～	昼食・解散	

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

一心ときめく、ワクワクした商品の継続的な提供

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第95回品質管理シンポジウム担当組織委員



岩崎 日出男
近畿大学 名誉教授



圓川 隆夫
東京工業大学 教授



大久保 尚武
積水化学工業(株) 取締役相談役



酒巻 久
キヤノン電子(株) 代表取締役社長



宮村 鐵夫
中央大学 教授



◎山内 康仁
アイシン精機(株) 相談役

グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

将来のニーズを継続的に創造するための基本的前提と企業に求められる価値観

■リーダー：加藤 雄一郎(名古屋工業大学 大学院工学研究科 産業戦略工学専攻 准教授)・高柳 毅(コーセル(株) グローバルブランドマネジメント戦略開発室 室長)

趣旨 顧客の声に耳を傾けることの重要性が説かれて久しい。しかし、いままでにない新たな将来のニーズを創造する上で、顧客の声は万全だろうか。顧客は「いまのニーズ」を言及はできる。しかし、「将来のニーズ」については知らない。この世にスマートフォンが生まれる以前に、市場調査からiPhoneのコンセプトを導くことは果たして可能だっただろうか。人々をワクワクさせる感動商品を生み出す上で、企業に求められる価値観や基本的姿勢は何か。将来ニーズを継続的に創造するための企業側の在り方について討議したい。

論点 ①企業の価値観について：「顧客にニーズを訊く」という姿勢から、「顧客自身が気づいていない将来ニーズを創る」という立脚点に移行する上で、企業側に求められる前提は何か。どのような暗黙的な価値観が改められるべきか。どのような基本認識を全社レベルで共有すべきか。
②方法論・思考技術について：従来型の改善だけではワクワク商品が生まれづらいとすれば、今後どのような考え方や手法、方法論が必要か。問題解決型QCストーリーをはじめとする「不具合改善型」の思考に加え、今後はどのようなタイプの思考技術が必要か。

第2班

新しい価値創造のための核となる技術の蓄積

■リーダー：猪原 正守(大阪電気通信大学 情報通信工学部 情報工学科 教授)・岡田 慎也(ダイキン工業(株) 常務執行役員 空調生産本部 副本部長、滋賀製作所所長)

趣旨 企業には、自社の技術(シーズ技術)を蓄積するとともに自社外の技術を収集して、新商品に結び付けられるよう準備しておくことが求められる。しかし、競合他社を先行する技術蓄積のためには、膨大な経営リソース(ひと、もの、金、情報、時間)を必要とする。限られた経営資源の中で、新しい価値創造を行い、魅力的な新商品・サービスを持続的に提供できる技術の開発、収集、蓄積を行うため、「企業に何が求められるか」、「企業は何をしなければならないか」などについて討議したい。

論点 ①新しい価値創造に役立つ自社技術の開発と自社外技術の収集によって蓄積した技術を、常に活用できる状態にすることで、トップであり続けるため、企業は何をしなければならないか。その「あるべき姿」について討議する。
②上記で明らかとなった「あるべき姿」を実現するため、企業は何を、どのようにしなければならないか。その実現策について討議する。
③上記で明らかとなった実現策を実行するため、私たちは何を、どのようにしなければならないか。その課題と解決策について討議する。

第3班

市場情報とコア技術を活用し、商品化する能力の向上

■リーダー：中條 武志(中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授)・鶴岡 亮一(富士ゼロックス(株) 執行役員 デバイス開発本部長)

趣旨 市場情報を分析することで顧客のニーズを捉えていたにもかかわらず、中長期の計画に基づいて必要なコア技術(シーズ)を開発していたにもかかわらず、両者活用することができず、新商品を生み出せていない。競合他社に遅れを取っている場合が少なくない。ワクワクした商品を提供するには、企業として、ニーズとシーズを結びつけ、新商品に仕立て上げる商品化能力を高める必要がある。そのために、組織・しくみ・人材育成等をどう変える必要があるのかを討議したい。

論点 ①ニーズを捉えていたにもかかわらず、コア技術を開発していたにもかかわらず、新商品を生み出せないのは何故か。
②企業として、ニーズとシーズを結びつけ商品に仕立て上げる商品化能力を向上するには、組織・しくみ・人材育成等をどう変えればよいのか。
③変えるために、具体的にどう行動すればよいのか。

第4班

商品化に結びつける強力なリーダーシップの育成

■リーダー：松田 啓寿(一財)日本科学技術連盟 嘱託)・向井 正人(株式会社技術研究所 二輪R&Dセンター 技術評価室室長 主任研究員)

趣旨 新商品の開発においては、基礎開発から量産開発、さらに量産化へと結びつけていくには、かなりの時間とエネルギーが必要である。「心ときめく商品の提供」までには、様々な障害も発生する。これらの障害を乗り越えるには、強力なリーダーシップを持った人が必要になる。そのような「リーダーシップ」は、どのようなカルチャー/組織環境で育まれるのか? また、持続的に育成できるのか? 当グループメンバーの実例を通して意見交換し、実践可能な提言を行いたい。

論点 “心ときめく商品”を実現させるリーダーシップ。そのような人材の発掘や、持続的な育成のために、組織は、ナニをどのように変えなければならないか。
①シーズ技術開発～量産技術に結びつけるまでの強力なリーダーシップとは、具体的にどのような力量なのか?
②上記①のような人材発掘・力量付与/育成に対する組織内の障害とは何か?

第5班

ワクワクする商品が生まれる企業文化の醸成

■リーダー：大藤 正(玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授)・浅野 功(パナソニック(株) ホームアプライアンス社 ランドリー・クリーナービジネスユニット技術統括グループ 安全・DR推進チーム 主任技師)

趣旨 新商品が生まれるには、企業の中で、足の引っ張り合いをしないような、自由な発想とアイデアを潰さない、ベンチャー精神を持ち続けられる、企業文化の醸成が必要である。このような企業文化をどうすれば持ち続けられるかについて、組織文化改革の可能性や創成方法を含めて討議したい。

論点 ①企業文化・組織文化の要素
②起業精神を持ち続ける企業文化・組織文化
③そのような文化をつくるにはどうすれば良いか

第6班

グローバル化におけるワクワクした新商品創造

■リーダー：石津 昌平(青山学院大学 理工学部 経営システム工学科 教授)・山田 透(株式会社小松製作所 開発本部 業務部 部長)

趣旨 市場のグローバル化は近年急激に進展してきており、企業は世界の様々な消費者を相手にするようになってきている。言葉や文化、経済レベルも異なる様々な地域に向けてワクワクする新商品を提供するには、市場の選定や市場ニーズの理解、現地人材の活用(特に企画や開発、設計において)などに加え、これらを効果的に行う組織運営などの対応がますます必要になってきている。第6班ではグローバル化に対応するため、企業はどのような点に着目し、どのような対応を行えばよいか討議したい。

論点 ①グローバル化においてワクワクした新商品創造にどんな対応が必要か
②これらを具体的に実施するために、どのような組織運営が必要か

第7班

トップの役割

■リーダー：長田 洋(東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科技術経営専攻 教授)・山岡 建夫(JUKI(株) 最高顧問)

趣旨 企業の飛躍を遂げるためのワクワク商品を生み出すには従来の常識にこだわらない新たな発想と顧客創造のための組織革新が求められる。このためには経営トップがリーダーシップを発揮し、コミットするものはどのようなものか、を事例をベースに討議し、トップ自らのあるべき像を探りたい。

論点 ◇経営トップは革新のためにどのようなリーダーシップが求められるか
①企業文化(組織風土)の継承と創造
②人材の育成のあり方
③組織の革新

参加要領

開催日時

2012年12月6日(木) 19:30~12月8日(土) 12:00
(12月6日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

参加対象

企業の役員, 上級管理職の方々

申込方法

下記の参加申込書に必要事項をご記入の上, 郵送・FAXで下記宛お申し込みください。第1次〆切を10月26日(金)とさせていただきます。
一般財団法人 日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp

参加費

- 一般 105,000円/1名(消費税込み)
- 本シンポジウム賛助会員会社 1名無料, 2人目から42,000円/1名(消費税込み)
- ※食事代(12月6日夕, 12月7日3食, 12月8日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚, 宿泊費, 交通費はご負担ください。
- ※JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)をいたします。
- 集合場所: 小田原駅 西口 改札口付近
※バス会社のバスガイドが案内板を持ってお待ちしております。
- 発車時間: 12月6日(木) 16:50発車 ※17:30ホテル到着予定
※発車の30分前にバスは到着いたします。
- 定員: 53名(乗車人数)
※先着順になりますので, 定員を越えてしまった場合は, 誠に恐れ入りますが, 各交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

第95回 品質管理シンポジウム 参加申込書

※太い野線内は必ずご記入ください。(参加者名簿は下記内容をもとに作成しますので正確にご記入ください。)

ふりがな 参加者名		会 社 名	
所 属		役 職	
所 在 地	〒		
E-mail			

※GDの事前討論のためにメーリングリストを設置いたしますので, 大文字, 小文字, - (ハイフン), _ (アンダーバー) などの区別を明確にご記入ください。

●希望するGD班に ○ をつけてください。		※第2希望も必ずご記入ください。ご記入がない場合, ご希望のGD班に編成されない可能性があります。					
第1希望	・ 1 班	・ 2 班	・ 3 班	・ 4 班	・ 5 班	・ 6 班	・ 7 班
第2希望	・ 1 班	・ 2 班	・ 3 班	・ 4 班	・ 5 班	・ 6 班	・ 7 班
●開催期間中のご予定 (下記の全ての事項にご記入ください)							
部 屋	☐ シングル希望 (32,000円/2泊(消費税・サ込))			☐ 2人部屋でよい (18,000円/2泊(消費税・サ込))			
※いずれかに印がない場合は, 事務局で決めさせていただきます。							
喫 煙	☐ す る			☐ し ない			
食 事	12月6日(木)	時頃ホテルに到着の予定				夕食	☐ 要 ☐ 不要
	12月7日(金)	朝食	☐ 要 ☐ 不要	昼食	☐ 要 ☐ 不要	夕食	☐ 要 ☐ 不要
	12月8日(土)	朝食	☐ 要 ☐ 不要	昼食	☐ 要 ☐ 不要		

●連絡担当者 (お申込受付後「関係資料」をお送りする方)			
会 社 名		事業所名	TEL
担当部課・役職名		担当者名	FAX
所 在 地	〒		
参 加 費	一 般 :	105,000円 (消費税込) / 1名 ×	名 = 円
	シンポジウム 賛助会員会社 :	1名無料, 2人目から42,000円 (消費税込) / 1名 ×	名 = 円

※1社でのご参加が2名以上の場合は, お手数ですが当紙をコピーしてご記入ください。
※参加申込書を電子データでご希望の方は, 品質管理シンポジウム担当までご連絡ください。
※シンポジウム賛助会員は, 日科技連賛助会員とは異なりますのでご注意ください。

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当 行 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp